

情報学ワークショップ 2013 論文フォーマット

情報 太郎, 浜松 花子

情報大学 情報学部

Information Workshop WiNF 2013 Paper Format

Taro Info and Hanako Info

Faculty of Information, Information University

1 はじめに

情報学ワークショップは、東海地区を中心として大学・企業等の情報技術に関する最新の研究成果を発表すると共に、学生・研究者の交流の場を提供することを目的としております。2013年度の第11回情報学ワークショップは、愛知工業大学で開催することになりました。学生の研究を奨励することを目的とし、優秀な学生の発表には賞を出して顕彰いたします。また、学生以外の発表は「招待講演」とさせて頂くこととなりました。情報学分野の情報交換の場として多くの方のご参加を期待しております。

本資料では情報学ワークショップの論文作成の方法を示します。発表者の方は、この資料に準拠して論文原稿を作成していただくようお願いいたします。ただしそれぞれの専門分野で優先すべきフォーマットなどがありましたら、そちらのフォーマットに従うマイナーチェンジも結構です。

昨年度までの情報学ワークショップ論文集をお持ちの方は参考にしてください。

2 提出いただくもの

論文集には1ページの概要を掲載することにし、論文の本文はCD-ROMに収録します。従いまして、論文概要1ページおよび論文本文の2つを提出していただきます。

3 フォーマットの概要

3.1 論文本体のフォーマット

基本的にMS-Word版ファイルのフォーマットに準拠していただきますが、もちろん書きやすいように、読みやすいようにマイナーチェンジして頂いてもokです。ただし最終的に書式を実行委員会・プログラム委員会で統一させて頂く場合があります。なお、この \LaTeX 版のテンプレートは、MS-Word版と異なる点もあります。以下の各項目を目安として考えていただければと思います。

1. 日本語タイトル、著者名、所属、英語タイトル、英語著者名、英語所属は、最初に1段組みで書きます。文字サイズは、日本語タイトルと英語タイトルが12ポイント、日本語の著者名と所属、英語の著者名と所属は10.5ポイントです。この間の行間は15ポイントの固定値になっています。
2. 本文は2段組みで、フォントは8ポイントで行間は1行です。この結果、1ページがおおよそ28文字×57行×2段となります。
3. また、各節の見出しは10ポイントとしています。

4. このようなフォーマットで4ページもしくは6ページに収まるように論文を作成していただきます。
5. マージンは上下が3cm、左右が2cmとします。
6. MS-Word版では、文字フォントは、タイトル、著者名、所属、見出しの部分が、MSゴシックとArialを使用しています。また本文は、MS明朝とCenturyです。ただしフォントについては特に制限はいたしませんので、独自の形式で論文を作成してかまいません。
7. ページ番号をつけないでください。
8. この資料は、 \LaTeX の範囲内で、おおむねフォーマットに従っているつもりです。

3.2 論文概要のフォーマット

論文概要は1ページでおおよその内容が分かるようにまとめてください。

本文の1ページ目と同様に日本語タイトル、著者名、所属、英語タイトル、英語著者名、英語所属を記述してください。それに続いて、論文概要、キーワード、もっとも重要な参考文献数点も記述ください。

論文概要はホームページにある「論文概要スタイル」の文書に準じたスタイルに従ってください。タイトルは12ポイント、著者名、所属は10.5ポイント、アブストラクト、キーワード、参考文献は10ポイントです。マージンは上下が3cm、左右が2cmとします。必ず1ページ以内に収めてください。ページ番号をつけないでください。

4 提出締め切り

ウェブページ <http://aitech.ac.jp/kwb/winf2013/> に掲載されている期限までに、フォーマットに準拠した論文概要・本文のMS-WordまたはPDFファイル(もしくは両方)を「winf2013-submit@kwb.aitech.ac.jp」にお送りください。よろしくお願ひします。

参考文献

- [1] 河辺 義信, 真野 健, 櫻田 英樹, 塚田 恭章, 電子投票プロトコルに対する無証拠性の定理証明, 情報処理学会論文誌, volume 52, No. 9, pp. 2549-2561 (2011).
- [2] Ichiro Hasuo, Yoshinobu Kawabe, Hideki Sakurada: Probabilistic anonymity via coalgebraic simulations, Theoretical Computer Science, volume 411, No. 22-24, pages 2239-2259 (2010).